

令和7年度富山県水墨美術館運営委員会 議事抄録

令和7年11月10日（月）
富山県水墨美術館映像ホール

- 1 開会
- 2 委員長選出
- 3 議 事
 - (1) 令和6年度事業報告
 - (2) 令和7年度事業実施状況
 - (3) 施設の管理運営状況
 - (4) アンケート結果
- 4 意見交換
- 5 閉会

12名中出席8名（うちリモート1名）欠席4名

主な発言

・昨年、日本文化史の先生を水墨美術館にお連れしたが、初めての来館と聞き、今後このような先生方に水墨美術館に来ていただき、当館の魅力を伝えていただく機会になることを願う。5月に中国遼寧省で書道団体の代表者などと話をする機会があり、富山には水墨美術館があるということで高く評価いただき、ぜひ交流したいと言っていた。国内外で水墨美術館が再認識・評価され、まだまだ可能性があることを感じた。昨年の展覧会では、作家やコレクターの考え方や制作に対する工夫などを伝えていただいた。今後も作品の魅力が伝わる展示が少しでも多く開催されることを願っている。 (A委員)

・来年度の企画展の名称に英語が記載されているものがあるが、意味がわからなくて一般の方もどのように感じられるかなと思ったので、今後、的確な言葉を考えられるといいと思う。また、アンケート結果等を見ると高年齢の方が多いが、最近の水墨美術館のチラシのデザインは斬新であり、SNS等を使ってうまく若い方にアピールできればいいのではないかと思う。先日、クルーズ船が伏木港に入港した際に、外国人を乗せたバスがドッグストアの駐車場に入っていたとき、お客様が買い物に行く姿を見ると、そのような方に水墨美術館に寄っていただくなど、美術館もアピールできないかなと思った。外国人の来館者数はどの程度あるのか？運営方針について、文言をわかりやすく変えたり今の時代に即したものに変えることはとてもいいことだ。「近代水墨画の系譜」という常設展示室のタイトルはずっとひっかかっていたが、運営方針案に記載されている「水墨表現にみる近代日本画」は的確だと思う。 (B委員)

・昨年度の企画展の観覧者数をみると摘水軒コレクションが圧倒的に多く、アンケート結果をみても伊藤若冲の作品をもっと見たかったという意見もあった。今、江戸絵画は本当に人気があることがわかる。昨今の江戸絵画の人気を考えると、来館者数を増やすためには江戸絵画に関する企画展を今後開催していくべきかと思う。今後、積極的に企画していただきたいと思う。 (C委員)

・企画展の予算が目減りしていく中で、美術館を運営していく上で、輸送費用や人件費、光熱水費など全ての経費が上がっていることから、県のほうでそのあたりの配慮をお願いしたい。通常、開館時に策定した運営方針というのは美術館が開館してから手つかずのままになっているのがほとんどである。当初の古い価値観で作成された方針が更新されないでそのままになっている状況において、今回、水墨美術館が自ら新しい方針を出されるのはすごくいいことである。水墨美術館が開館して四半世紀が経過し、価値観の状況も変わってきてている中で、これまでやってきたことを反映しつつ、新しい方針を策定することはすごくいいことだと思う。ただ、今回方針を変えると20年ぐらいは変えられないと思うので、文言は慎重に選んでほしい。昔の方針が役所的な言葉や難しい言葉を使っているので、少し噛みくだいてできるだけ平易な言葉で記載することはいいことだと思う。また、自分で自分の首を絞めないよう、基本的なところをできるだけ簡潔に、できれば言葉を少なく記載するのがいいと思う。また、ホームページで公開する場合、文章が長いと読まれないので、キャッチフレーズを記載するなどシンプルにしたほうがいいと思う。

(D 委員)

・昔は、県内の美術作家と水墨美術館はいろいろ接点があり、いろいろな事業を協力しながらやってきたと思うが、現在は、越中アートフェスタの審査員をしていただいている以外、接点はない状況。市民ギャラリーのようなものがあればいいと思うが、美術館の制度上難しいかもしれないが、何か関わることができればいいといつも思っている。 (E 委員)

・水墨美術館の企画展は全て見ているが、江戸絵画の展覧会があると時代の幅が広がり、近代日本画の源流に江戸絵画があることがよくわかり、いいと思う。現在開催中の日本画展で本県ゆかりの尾竹竹坡などの作品を見ることができたのはとても楽しかった。企画展においてアニメや漫画などと一部コラボした展示があれば、若いを中心に入館者数を増やす効果もあるようなので、作品とサブカルチャーをつなげて展示するなど、一部にそのような工夫もするといいのではないか。また、企画展で思ってもみないような作家、他ジャンルの作家を紹介していただくのも楽しいと思う。今後、数十年と年数が経過していく中で、今後評価されていく作家について、水墨美術館としてどのようにカバーしていくか今後の課題だと思うが、考えていただけるとありがたい。 (F 委員)

・五福山水苑にある池は魅力的で、雨模様の中でも池のカモを見るとそれだけでも癒される。本当にあの池はすごく魅力的で、絵になる景色だ。私がどうぶつ百景展を見に行った後、20代の息子がその展覧会を見に行きたいと言ったので再度見に行ったが、テーマ的に若者にもウケるものだったのかなと思った。また、その展覧会のイベントで「うさぎブーム」の話があったが、朝ドラの「ばけばけ」でもそのことが取り上げられており、いろいろな「気づき」を与えられるのが美術館のいいところだと思う。また、その展覧会で高岡市出身の林忠正が紹介されていたが、ゴッホも林忠正にすごく影響を受けていた。そのように、林忠正が西洋美術に多大な影響を与えたということをもう少し県民の方に知ってもらうために、今後の展覧会の機会をとらえるなど、もっとPRできたらいいのではないか。YUME JI展の会期中に梅花藻のコンサートを聴いたが、夢二が風俗や音楽な

どにもかかわったという部分で、運営方針の「体感する」をまさに実感できた。

(G 委員)

・今、全ての「モノ」の値段が上がっており、この経費の上昇傾向は引き続くと思うので、みなさんの満足いくような展覧会、美術館活動を行うためには、経費がかかる部分はきちんと予算を確保できるよう、県の財政当局には配慮いただきたい。展覧会の観覧者数のデータを見ると、先ほども意見があったように江戸文化の人気の高さを感じる。また、竹久夢二のように美術活動以外にデザイナー、プロデューサーなど多面的な活動をしていた作家の展覧会は人気があると思う。そのような水墨美術館として意外性のある展覧会が年に1本続くと、水墨美術館に対する興味の喚起にも繋がるのではないか。運営方針の策定について、この現代社会で、社会教育施設だけでなく、改めてさまざまな人たちの生活を豊かにする場としての美術館の姿が求められており、それに対する新たな姿勢を表明していくということで、この見直しというのは、非常に時宜を得ているのではないか。先ほども意見があったように、方針を一旦制定すると改定するのは難しいことなので、これから活動の縛りにならないよう、ぜひ精査をしてから策定することが望ましいと思う。

(H 委員)

・運営方針の基本理念の部分で、旧来は生活空間での展示を意識して襖や床の間の展示で理解できるが、具体的に体感する方法はどうかということを考えた表現が必要だと思う。また、「日本文化の精髓」について、日本には木の文化、墨の文化、(先ほどの意見にもあった)庭の文化など幅広くあることから、「四季の移ろい」だけでよいのかという観点も必要だと思う。今後も県民の美術館の利用活動が重要であり、(先ほど言わったように)生活を良くし豊かにする場としての美術館がどのように関わっていくかという観点もあると思う。「郷土への誇りと愛着を育む」という部分について郷土の文化への関わりをしつかり書き込んだことは良いと思う。「文化観光を視野に入れた情報発信と戦略的な広報」の部分は、文化が観光に従うのではなく、文化が観光を通じてより一層脚光を浴びるという意味において、具体的にどのように進めていくか検討が必要だと思う。 (A 委員)